

受賞名：優秀賞

タイトル： みんなのヒーロー、おまわりさん

氏名： 田畑 颯希

小学校名：三重県 津市立戸木小学校 四年

「早く、早くにげて！」

ぼくはとなりのクラスに走っていき、ドアを開けてさげんだ。今年のふしん者が来た時を想定したひなん訓練での出来事だ。それまでに、たんになの先生が何度もひなん訓練について話をしてくれた。だから、ぼくはいざという時のためにしっかりと練習をしないといけないと何日も前から意気こんでいた。

そして、その日がやってきた。ぼくのクラスにふしん者役の先生が来た。まさか、ぼくのクラスにふしん者役の先生が来るとは思っていなかったけど、そんなことを考えているひまはなかった。ぼくは、とにかく教室を飛び出して、たんになの先生から聞いていたように、となりのクラスみんなににげなきやいけないことを伝えた。これはぼくにあたえられた役わりというわけではなかったけど、体が勝手に動いていた。ぼくは訓練だとか、訓練じゃないとか関係なく、必死だった。ぶじに全員が体育館ににげることができて、すごく安心した。

そして、体育館でおまわりさんからの大切なお話があった。おまわりさんは、「ふしん者は、今日来るかもしれない。明日来るかもしれない。だから、訓練はちゃんとしておかなければいけない。」

とおっしゃっていた。ぼくは、その通りだと思った。

その後、みんなで教室にもどった。たんになの先生が、全校生徒にふしん者が来たことを知らせる行動をした友達とぼくのことをすごくほめてくれた。ぼくは、当たり前のことを必死にただけだったのになぜほめてもらったのか不思議だった。でも、訓練だからと真けんにしていなかった子もいて、その子はたんになの先生に注意されていた。ぼくには、なんで真けんにならないのかよくわからなかった。本当にふしん者が来たら、死んでしまうかもしれないのに。

ぼくのお母さんはようち園の先生だ。お母さんの働いているようち園でも同じようなひなん訓練があったそうだ。お母さんはその日仕事から帰ってきて、すごくつかれたと言って、すぐにおねてしまった。訓練は大成功で、お母さんががんばったから、ようち園の子どもたちはふしん者役の人に会わなかったらしい。失ばいしておこられたわけじゃないのに、大人は訓練をするとつかれるんだなと思った。お母さんは一日訓練ただけでクタクタだった。それなのに、おまわりさんは、いつもたくさん訓練をして、実さいに悪い人をつかまえてくれている。ぼくたちは、おまわりさんのおかげで、大変なことをたくさんしなくてもいいし、安心してくらせているのだろう。

おまわりさん、ぼくたちをきけんなことから、守ってくれてありがとう。これからも命を大切に、がんばってください。おねがいします。ぼくはこわがりで、おまわりさんのようにはなれないけど、ぼくもだれかの役に立つことができる人になりたいな。